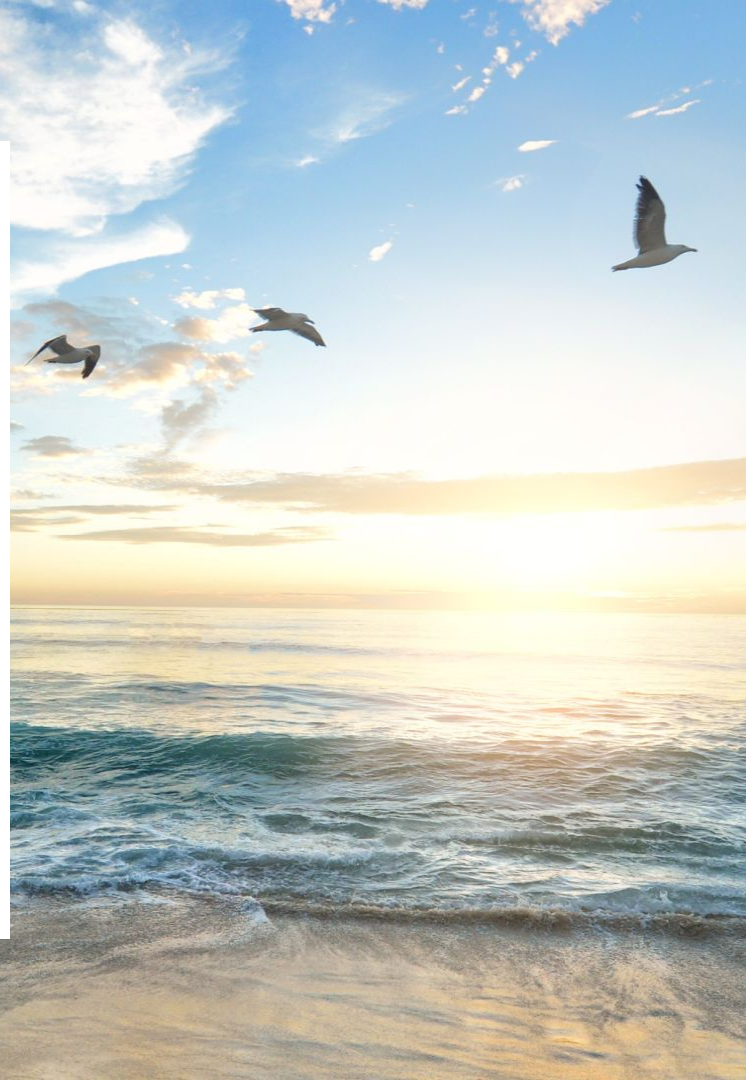


sustainacraft

■ サステナクラフト 会社概要

Our platform enables many stakeholders to engage in an open and transparent dialogue for a nature positive environment

Confidential



会社概要

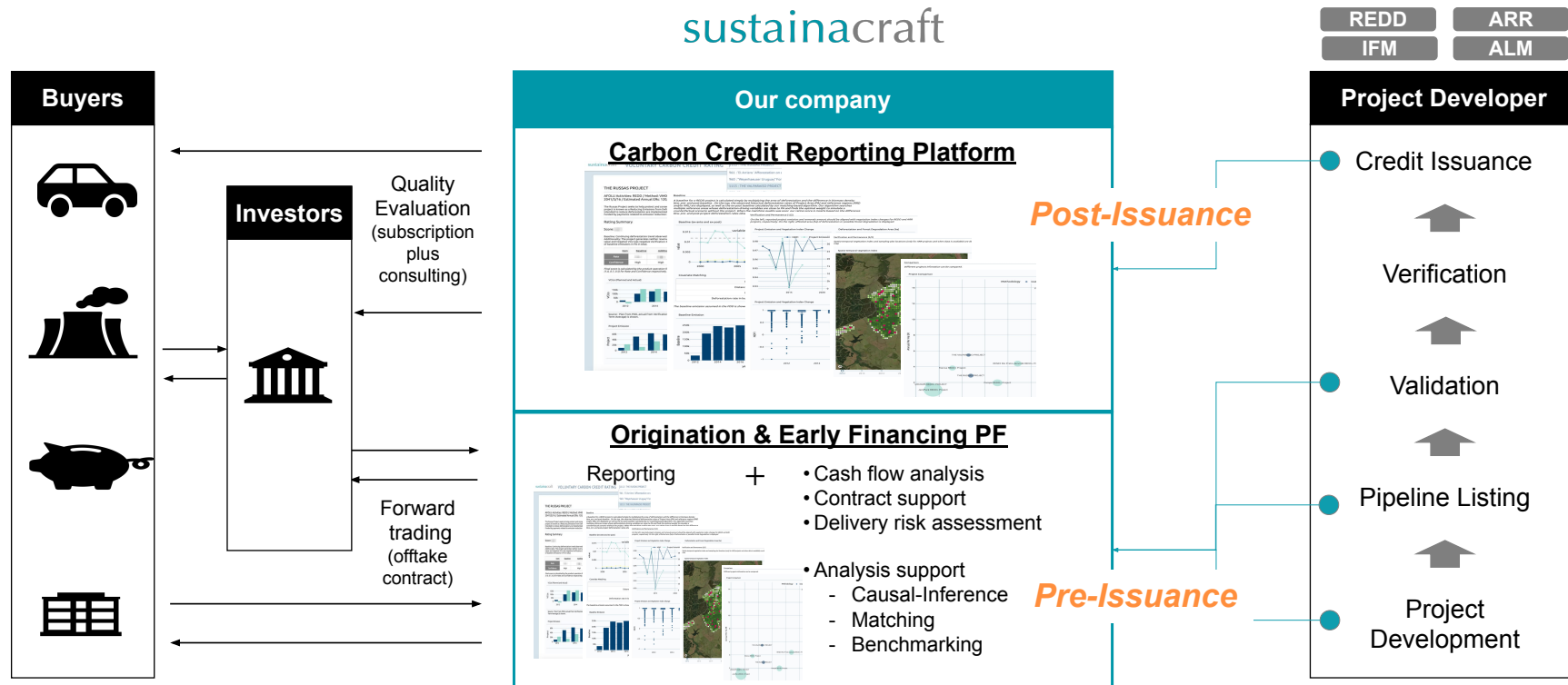
社名	株式会社sustainacraft（サステナクラフト）
設立	2021年 10 月1日
代表者	末次 浩詩
資本金	3億3,601万円（資本準備金含む）
投資家	インクルージョン・ジャパン株式会社、株式会社三菱UFJイノベーション・パートナーズ、ジャフコグループ株式会社
所在地	東京都目黒区目黒2丁目11番3号 印刷工場2階
会社HP	https://jp.sustainacraft.com
お取引先企業 （一部、順不同）	東京ガス、関西電力、丸紅、小松製作所、東京海上アセット、INPEX、大阪ガス、双日、農林中金、FundOn、大多喜ガス、商船三井、王子製紙、本田技研工業、電源開発、野村證券
パートナー	日本工営、SDG Impact Japan、国立環境研究所、一橋大学、AlliedOffsets、Conservation International Brazil
助成金等	2023年度経済産業省SBIR（上限4.2億円）「自然由来の炭素・生物多様性クレジットの定量化に向けた技術開発」 2022年度NEDO: エネ環事業
受賞歴等	東京都金融賞（2022年、ESG部門）、Forbesネイチャーポジティブの50社（2023年）、MUFG ICJ ESGアクセラレーター大賞（2022年）、JICA TSUBASA（2021年）

■ 当社のミッション・ビジョン、戦略

ミッション: 透明性の高い自然資本のプロジェクト評価技術を用いて、買い手とプロジェクト開発者を繋げ、自然保全プロジェクトへの資金循環を後押しする

2030年までに累計1億トンの自然由来のクレジットを供給し、自然資本への資金循環に貢献することを目指しています。

sustainacraft



①炭素クレジットの調達支援と、②企業サプライチェーンの最適調達設計サービスを提供

① 炭素クレジットの調達支援サービス

カーボンクレジットの調達戦略策定から案件探索、調達・償却の取引サポートまで一貫してご支援します

調達戦略立案

- 6条4項クレジットは？
- CORSIA、CCPの状況は？
- GX/ETSで用いるJクレ/JCMのポテンシャルは？ 品質リスクは？
- 除去クレジットの今後の技術進展や創出コストの見通しは？

案件探索・交渉

- 調達するとなると、どの国のどの活動タイプが良い？
- どのようにポートフォリオを構築すべきか？
- それぞれの国・案件タイプでトラックレコードのあるデベロッパは？
- 案件ごとのリスクファクター、経済性（IRRや調達単価）は？

進捗確認・取引支援

- ダウンサイドをヘッジするための適切な契約条件は何か？
- 投資・オフテイク契約を実施した案件は予定通りに活動を進んでいるか？

nature.cocraft

炭素クレジットの共同調達サービス

nature.cocraftは、企業連合を組成し、信頼性の高い海外のカーボンクレジットを効率的に調達することができるプラットフォームを2024年9月より運営しています。

② 企業サプライチェーンの最適調達設計サービス

tracecraft

tracecraftは、情報が完全に収集できていない状況を前提に、グローバル貿易情報等を活用し、ハイリスクな調達国やサプライヤーを推定、想定されるCBAM対応コストや関税コストの定量的分析を行います。多層の複雑なサプライチェーンでも、当社独自のデータ処理技術により高速に分析結果を提供します。

✓ 各種規制の影響

- CBAM / EUDR / ...
- 欧州/バッテリー規則

✓ コモディティ価格変動

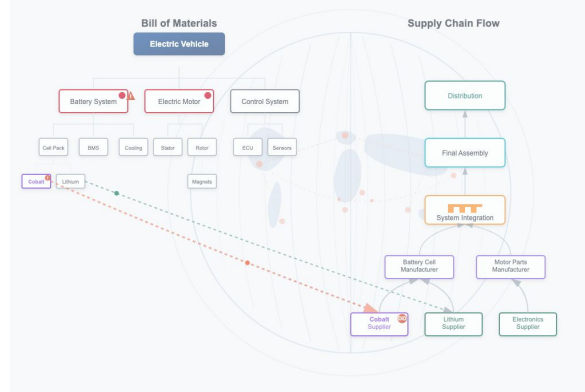
- 気候変動による農業コモディティ価格の高騰 ...

✓ 関税の影響

- USMCA原産地規則準拠
- 中国からのバッテリー輸入..

✓ CFP

- 国別や製造工程の違いを考慮したカーボンフットプリントは？



①炭素クレジットの調達支援

カーボンのクレジットの調達戦略策定から案件探索、調達・償却の取引サポートまで一貫してご支援します

1

調達戦略立案

2

案件探索・交渉

3

進捗確認・取引支援

主な論点

- 6条4項クレジットは？
- CORSIA, CCPの状況は？
- GX/ETSで用いるJクレ/JCMのポテンシャルは？品質リスクは？
- 除去クレジットの今後の技術進展や創出コストの見通しは？

- 調達するとすると、どの国のどの活動タイプが良い？
- どのようにポートフォリオを構築すべきか？
- それぞれの国・案件タイプでトラックレコードのあるデベロッパーは？
- 案件ごとのリスクファクター、経済性 (IRRや調達単価)は？

- ダウンサイドをヘッジするための適切な契約条件は何か？
- 投資・オフテイク契約を実施した案件は予定通りに活動を推進しているか？

実施事項

- ・ 脱炭素計画に沿ったクレジット調達戦略の策定
- ・ 調達方針の選択(発行済みクレジット・初期投資案件・案件開発等)
- ・ 社内におけるカーボンのクレジットの必要性啓蒙・意識醸成
- ・ 必要となる予算規模・人的リソースの把握

- ・ 調達方針毎のロングリスト作成、ショートリスト絞り込み
- ・ 案件の費用対効果の算出、社内における投資意思決定
- ・ 仲介事業者との交渉による条件決定

- ・ 対象案件が投資方針通り環境貢献をしているかに関するモニタリング(炭素吸収/排出回避、地域社会、生物多様性等)
- ・ IRにおける適切な主張
- ・ トラブル発生時の対応

当社支援

- ・ クレジットの技術的観点・他社調達状況・案件開発状況を踏まえた調達戦略策定支援
- ・ 案件関与実績に基づく調達方針策定支援
- ・ 社内向けの研修の実施

- ・ ショートリスト絞り込みのための初期スクリーニング(1件当たり2-3週間程度)
- ・ 案件の費用・効果両面の検証に基づく投資採算検証、及びデベロッパー・仲介事業者との交渉支援

- ・ 衛星データ、社会データ、論文等多様なデータに基づく効率的なモニタリング
- ・ IRおよびトラブル発生時に、問い合わせに応じることができる技術的説明の支援

需要側・供給側のハイレベルな動向に加え、各国の炭素クレジット関連プレイヤーからの生の声も踏まえて炭素クレジットの調達戦略立案の策定を支援します

実施事項

I. クレジット動向 (供給側)

方法論ごとに以下を整理

(対象: Jクレジット、JCM (6条2項)、海外ボランタリークレジット、6条4項クレジット)

- 案件パイプライン (供給ポテンシャル)
- 価格見通し (現在及び将来)
- サプライヤーマップと投資動向

II. クレジット動向 (需要側)

GX/ETSやSBTi、GHGプロトコルに加え、影響を与える、EU-ETSやCBAM、EUDRなどの動向

- 国内排出権取引精度 (GX/ETS)
- SBTi: カーボンクレジットの扱い (BVCM、インセット、残余排出量に対する中和)
- GHGプロトコル: 企業バウンダリーにおける算定の考え方
(どのような条件の場合にインセットと判断されるか)
- そのほか、影響を与える規制動向
(環境主張に関する法規制 (EUグリーンクレーム指令等) やEU-ETS, CBAM, EUDR等)
- 創出国側の動向 (海外輸出規制や国内での炭素税/排出権取引制度の導入など)

III. とりうるオプション とPros/Consの整理

上記I及びIIを踏まえ、とりうるオプションとそれぞれのPros/Consを整理する

- Pros/Consは、次の要素などを考慮する
価格 / 供給ポテンシャルや安定性 / 品質 (批判リスク)
- 「とりうるオプション」として、クレジットメカニズムや方法論に加え、調達スキームに関してのオプションも整理する
- 国内外 (主に海外企業) の案件参画事例の整理

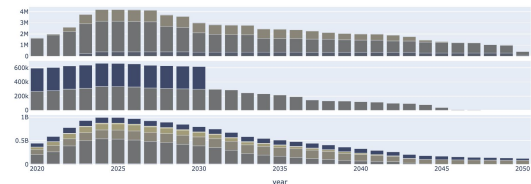
IV. ポートフォリオの 設計/実行プランの 整理と短期施策推進

整理したオプションからポートフォリオを設計し、プランを設計・実行する

- 上述で整理したオプションをもとにポートフォリオを設計する
- 実際に調達を進めていくために必要な組織体制や具備すべきケイパビリティの整理
- 短期的に実施すべき事項の推進

アウトプットイメージ

2050年までの活動タイプごとの供給ポテンシャル



6条4項メカニズムが各国制度に与える影響

国	制度	制度における炭素クレジットの扱いの現状・見込み
日本	GX-ETS	
シンガポール	炭素税	
スイス	CO2法 Swiss ETS	
EU	EU-ETS CBAM	
UK	UK-ETS UK-CBAM	

Pros/Con整理

炭素クレジットメカニズム	分類	価格	供給	品質	総合評価
Jクレ	エネルギー系				
	森林系				
	CDR系				
JCM	エネルギー系				
	自然由来				
	CDR				
ボランタリー	エネルギー系				
	自然由来				
	CDR				
6条4項	吸収系				
	排出削減系				

当社で開発したプロジェクトアセスメントフレームワークにより定量的に案件のDDを実施

プロジェクト活動や場所ごとにリスクファクターは様々であり、一般にプロジェクト開発者は楽観的な提案を提示してきます。

	開発者提案	当社評価	事例① ARR案件（原生樹種の植栽） 	事例② REDD+案件（WRC） 	事例③ IFM案件（保護林化） 
	<i>Illustrative purpose only</i>				
Carbon Yield	1.6M (tCO2)	1.2-3.0M (tCO2)	- 森林生長の想定は妥当か？ - 事業開始後想定通りに生長しているか？	ベースライン排出の想定は妥当か？（泥炭の厚さや泥炭劣化速度に関する想定は妥当か？）	- ベースラインの想定は妥当か？ - 保護林化した場合にどの程度炭素蓄積が上昇するか？ “除去”比率の想定は妥当か？
Cost	16.0 (M USD)	19.2-27.9 (M USD)	- 活動実施に必要なコストは適切に計画されているか？ - ナーサリーなど内製化/外注に応じて将来どのような不確実性があるか？	- 再湿潤化や水路工事のための実行コストは適切に計画されているか？ - ベネフィットシェアリングの水準は妥当か？	土地取得や施業コストの想定は妥当か？
Risk	13%	18-30%	- プロジェクト開発者は十分な能力／実績を有するか？ - 郷土樹種の樹種選定/発芽プロセス/炭素蓄積を向上する植栽戦略等が特定でき、実行できるか？ - 現地雇用は継続して創出されるか？	- 泥炭火災はどの程度想定されるか？ - 火災等リスクを低減させる、もしくは起きた際の損失を低減する施策が取られているか？	- 森林火災リスクはどの程度か？ - 火災が起きた際の実際の影響はどの程度か？
Financial	11.9 USD/tCO2	9.8-43.1 USD/tCO2	- クレジット創出量、コスト、リスクを踏まえて、十分な投資リターンが見込まれるか？ - ダウンサイドリスクをヘッジするにはどのようなオプションがあるか？	- クレジット創出量、コスト、リスクを踏まえて、十分な投資リターンが見込まれるか？ - ダウンサイドリスクをヘッジするにはどのようなオプションがあるか？	- クレジット創出量、コスト、リスクを踏まえて、十分な投資リターンが見込まれるか？ - 木材収益や土地売却の想定は妥当か？ - 保全地役権など財源の不確実性は？

プロジェクトレベルでのモニタリング

これまでは発行済みクレジットのスポット調達が一般的だったが、初期段階での投資／購入予約も可能であり、批判リスクへの対処や除去クレジットの確保という観点から、早期段階での案件参画事例が増加している。

その場合、デリバリーリスクの定量化が必須であり、投資実行以降も定期的なモニタリングが不可欠。

速報性のある森林火災モニタリング

森林火災分析事例: 2025年1月の米国カリフォルニア州での火災

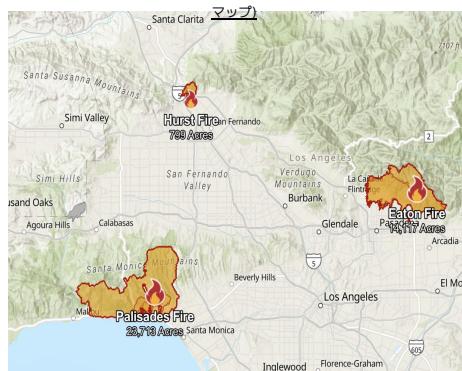
米国カリフォルニア州で続いている大規模な森林火災について、影響範囲を推定。

カリフォルニア州が公開する火災マップ (CalFire) と概ね一致。

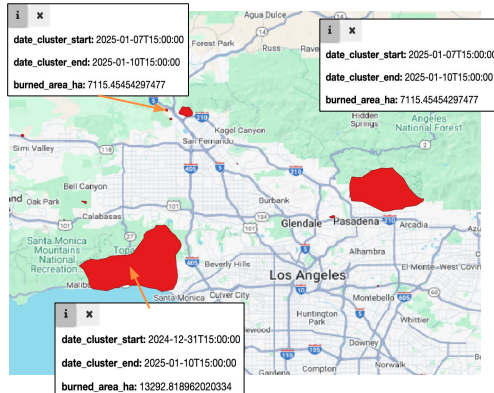
当社では任意の場所にて日々でのモニタリングが可能であり、森林ファンド等において森林火災が発生した際に、

速報性のあるレポートを投資家等に対して迅速に実施可能。

CalFireの結果 (2025年1月14日時点。カリフォルニア州が公開する火災



弊社アルゴリズムによる推定結果 (2025年1月10日時点)



衛星データと階層モデルを用いた成長カーブを用いた森林炭素蓄積量の推定 / ゾーニング

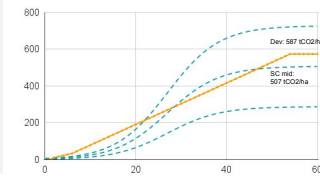
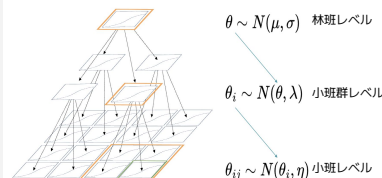
<<衛星データと統計モデルの融合>>

- 衛星画像のみでは除去しきれないノイズを、階層的な成長モデルを組み合わせることで頑健な推定を実現

<<ゾーニング>>

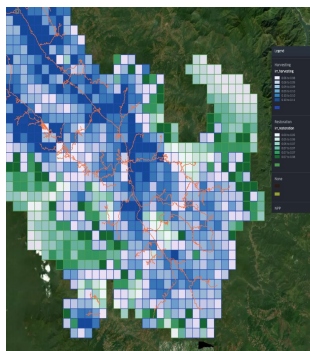
- 林道からの距離や斜面、植生指数などをもとに、産業植林と環境植林の最適シナリオを設計
- 将来の木材価格や炭素価格を想定した経済性の感度分析による投資意思決定支援

階層的成長モデルの概念図



最適な活動シナリオの特定 (ゾーニング)

(青: 産業植林が最適、緑: 環境植林が最適)



$$\max_{x_1, \dots, x_n} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \text{IRR}(\text{revenue}(S_i, x_i), \text{cost}(\text{slope}_i, \text{dist}_i, x_i, x_{i-1}))$$

生物多様性に関するモニタリング事例

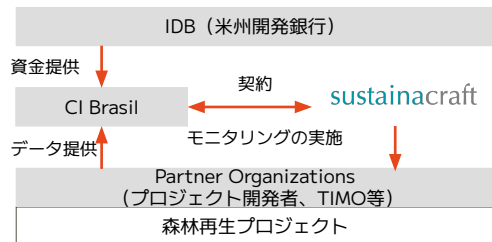
陸域での森林再生活動での炭素及び生物多様性モニタリング事例（ブラジル）

CI-Brasil(*)との森林再生モニタリング案件

(*) Conservation International Brasil

- ブラジルの森林再生プロジェクトの遠隔モニタリングを、衛星を利用した森林バイオマス推定技術を使って実施し、ブラジルにおける気候変動の緩和と適応に貢献するもの
- 対象地域が3万ヘクタールの場合、1万5千人の直接裨益者を見込む（対象地域はプロジェクトの中で絞り込んでいく予定）

案件スキーム

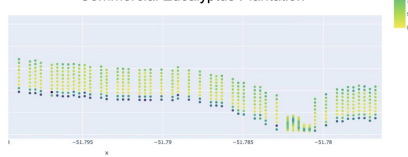


LiDARの波形データの比較例：天然熱帯林と植林地

Undisturbed forest in the Amazon Tropical Rainforest



Commercial Eucalyptus Plantation



沿岸域での海藻保全活動における生物多様性の定量化事例（日本国内）



石垣島／西表島ではウミシヨウブ（海藻）が急速に消失
(左: 2014年、右: 2023年)



環境DNAによる解析 (国立環境研との共同研究)

解析方法

- DNA抽出、MiFishプライマー(*)でPCR増幅、MiSeqで解析
- (*) 魚類がターゲット、ただし特に脊椎動物全般に増幅される
- Bioinformatics: DADA2, Claident2
- 100 reads以下は除外

結果

- 全32地点で魚類合計147種群が検出された。
- 各地点の平均魚種数 20.4種群 (max 28, min 13)
- 各魚種の平均出現地点数 4.56地点 (max 30, min 1)



②企業サプライチェーンの最適調達設計サービス

サステナビリティ担当と調達担当の役割分担と、昨今の要求

サステナビリティ担当

- **気候変動対応:** GHG排出量の算定 (Scope1,2,3)、削減目標 (SBT など) の設定
- **サステナビリティ報告:** CSRD、TCFD、GRIなどのフレームワークに基づく報告書の作成
- **ESGリスク管理:** サプライチェーンにおける環境・人権リスクの把握と対応策
- **ステークホルダー対応:** 投資家、顧客、規制当局などへの情報開示と対応

...

調達担当

- **調達戦略:** 品質、コスト、納期を踏まえた調達先の選定と契約
- **供給リスク管理:** 地政学リスク、納期遅延、サプライヤー倒産などの対応
- **サプライヤー管理:** 調達先の評価、監査、継続的改善の要求
- **調達関連データ管理:** HSコード、原材料、輸送経路などの管理とトラッキング
- **サステナビリティ対応:** サステナビリティ方針を踏まえた調達基準の設定 (例: 環境・人権デューデリジェンス)

...

不完全情報

- 現状の供給網も、PrimaryデータはTier 1まで
- 現状の供給網以外についてはリスク評価不能

CBAMの導入

- 炭素コストを踏まえた最適調達はあるか？

トランプ関税

- 中国を中心に工業製品 / コモディティに関するグローバルな貿易フローの変化
- USMCA対応 ...

農業コモディティ価格の高騰

- 気候変動に伴う生育不良 etc.

...

不完全な情報を前提に、「サステナビリティ」の観点でも「最適調達」の観点でも
定量的に分析ができるSupply Intelligenceが必要

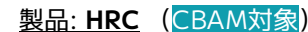
サプライチェーンとサステナビリティの融合として、このような課題があるのではないのでしょうか
(カーボンやネイチャーの指標を、内部化した炭素価格などで金銭的な指標に換算する)

- **CBAMなど新たな規制が入ってきた時に、どのような影響があるのかわからない**
 - 自社（日本→EU輸出分）が支払うべき金額に加え
他国の影響も含め、国際的に競争力のある価格でEUに提示できるのか？
 - 今後の規制拡大の影響は？
 - 1) 品目の拡大（鉄鉱、アルミ、肥料などから完成品へ）
 - 2) 対象とする排出範囲（Scope 3まで含む; 鉄鉱であれば、原料調達/輸送など）
- **調達ルート変更に伴う排出量の影響がわからない**
 - “ecoinvent”などグローバルなLCAを使っていたとしても、
「どの国から調達するとどうなるのか」のシミュレーションは直接的にはできない
- **各種規制を考慮した時の最適調達ルートがわからない**
 - そもそも農業・工業コモディティどちらも上がっている（国や港ごとのFOB価格自体の考慮）
 - 調達先を変える場合、関税やFOB価格など要素がさまざまであり、シミュレーションしきれない

- CBAM / グリーンスチール / 原料の鉄鉱石の価格推移 (/) ..



- ✓ 調達コストの推移は？
- ✓ 炭素排出はどの程度？



- ✓ 製造工程ごとのコスト/炭素排出は？
- ✓ CBAM証書コストやトランプ政権の Steel Tariffの影響は？

720309 - 中国のシリコン鉄と炭素含有の  CO2E

Quantity: 1 unit (1000 kg)

54% 削減 

国	炭素価格	コスト (1 TWh)	削減 (-80%)	削減 (+80%)	削減率	炭素コスト	炭素コスト
China 100	 Very High Risk	\$5514.1M	\$568.41 (\$5.68 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	2860.0 kg CO2E 1000.0 kg / 2.860 kg EST: 2.860 kg EST: 2.860 kg	\$731.41 (\$7.31 / 1000 kg)
Japan 352		\$4110.8M	\$696.13 (\$6.96 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	2390.0 kg CO2E 1000.0 kg / 2.390 kg EST: 2.390 kg	\$765.83 (\$7.66 / 1000 kg)
Japan 382	炭素取引 / 低リスク	\$4110.8M	\$720.00 (\$7.20 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	400.0 kg CO2E 1000.0 kg / 4.000 kg EST: 4.000 kg	\$740.00 (\$7.40 / 1000 kg)
Japan 352	炭素取引 / CO2E	\$4110.8M	\$890.00 (\$8.90 / 1000 kg) シナリオ 2050	0.0%	50.0%	1600.0 kg CO2E 1000.0 kg / 1.600 kg EST: 1.600 kg	\$780.00 (\$7.80 / 1000 kg)
Rep. of Korea 495		\$1714.5M	\$663.83 (\$6.64 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	2280.0 kg CO2E 1000.0 kg / 2.280 kg EST: 2.280 kg	\$714.50 (\$7.15 / 1000 kg)
Viet Nam 754		\$979.7M	\$658.28 (\$6.58 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	2860.0 kg CO2E 1000.0 kg / 2.860 kg EST: 2.860 kg	\$732.28 (\$7.32 / 1000 kg)
India 485		\$669.4M	\$815.50 (\$8.16 / 1000 kg)	0.0%	50.0%	2860.0 kg CO2E 1000.0 kg / 2.860 kg EST: 2.860 kg	\$738.50 (\$7.39 / 1000 kg)

削減に関する前提

Lowest product, average rate 0.0%

Critical: TWh input to 50.0% improved

炭素取引の削減率を参照 

Case2: ガソリン車 / 電気自動車

- 欧州バッテリー規則: DRCからのコバルト調達DD
- EUDR対応: タイヤの原料として天然ゴム調達
- 対USへの高い関税率: 中国からのバッテリー輸入

Electric Vehicle Global Supply Chain

Critical Materials → Battery Production → EV Manufacturing → Global Markets

Supply Chain Elements

- Cobalt (Critical, High Risk)
- Lithium (Battery Grade)
- Battery Manufacturing
- EV Assembly
- ESG/Regulatory Risk

Cobalt Concerns

- Child labor risks
- Artisanal mining issues
- Supply chain transparency
- Due diligence required

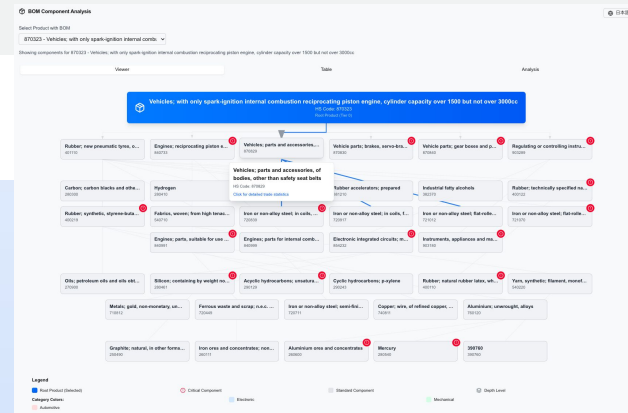
Trade Regulations

- EU: Battery passport
- US: IRA local content
- China EV tariffs (EU/US)
- Critical mineral rules
- Carbon footprint limits

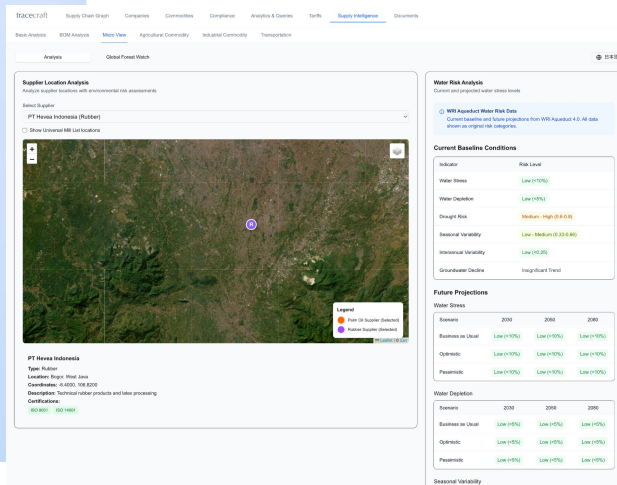
Battery Production

- China: 75% global capacity
- Korea: Premium cells
- Japan: Solid-state R&D

複雑なBOM階層に沿った分析（調達コスト、CFP..）

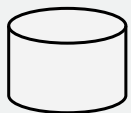


位置情報に紐づくリスク分析（水リスク / 森林減少）



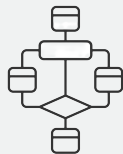
当社のサプライチェーンプラットフォーム

- 当社のプラットフォームは、**基本的には「データ」と「計算モジュール」のセット**です
 - ただし、データはグラフとして保持しているものが多く、多層で複雑なサプライチェーンのデータも効率的にクエリが可能
- 必ずしもSaaSとして使っていただく必要はなく、**御社の環境に合わせたカスタマイズソリューション提供も可能**（むしろ推奨）



データ (グラフ)

- 関税(Tariff Schedule)
- 規制DB (CBAM, Battery..
 - 対象品目 / シナリオ
- 標準BOM / 標準EF
 - 特にコモディティに強い
- 貿易統計
- コモディティ物量・価格動向 (FOB, CIF)
- 農業／工業コモディティ変動要因 (PMI、早魃INDEXなど)
- 海運運賃動向
- リスク
 - 水リスク
 - 森林減少リスク
 - 人権リスク



計算モジュール

- 排出量計算モジュール
- 輸送費計算モジュール
- 炭素コスト計算モジュール
- 関税計算モジュール
- 最適調達計算モジュール
- 森林減少計算モジュール
- コモディティ予測モジュール
 - 工業コモディティ
 - 農業コモディティ

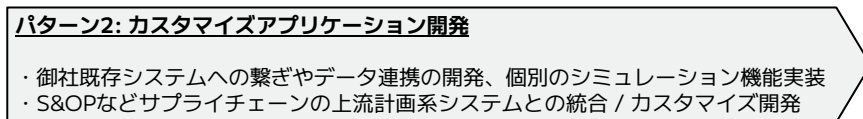
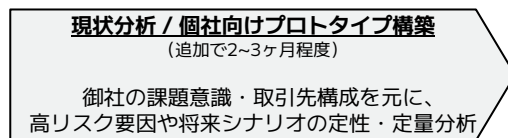
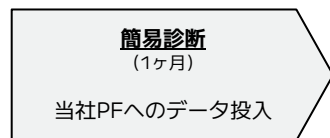
想定ユースケース

- **排出量の可視化 / 高リスク箇所の特定**: 「サステナビリティ」
Tier1以降のサプライヤーも含めたGHG排出量の計算、各種規制を踏まえた時の高リスクサプライヤー／商材の特定
- **調達インテリジェンス**: 「サステナビリティ×調達」
関税や調達コスト、炭素コストなどを統合的に解析した上で、最適な調達シナリオを設計する
- **S&OP (Sales and Operation Planning)**: 「製販連携」
販売計画を所与とした際の最適供給計画の策定

検討プロセス

検討の流れ

まずは1-3ヶ月程度の簡易分析から始め、その結果に応じて、既存のサービスを継続利用いただいたり、カスタマイズしたアプリケーションを構築するなどの方針を決定できます。



必要データ

- 必須データ
 - HSコードの紐づいたBOM
 - わかっている限りでのサプライチェーン情報（取引金額、数量、サプライヤー情報）
 - 緯度経度情報があれば、より精緻なリスク評価が可能（水リスクや森林減少リスクなど）
 - なければ国・州レベルなどわかっている情報からの推定を行います
- *Optional*: ご用意いただければ反映できるもの
 - 御社でのより正確な排出量計算データ
 - 商品コード / 製造工程オプションごとの排出係数や原価
(当社で用意している標準排出係数やコスト情報を上書きしてこちらのデータが使われ、標準との比較分析が可能になります)

当社コアメンバー

炭素循環の研究、データサイエンス、開発銀行などの金融機関等、
多様なバックグラウンドを持つチームで運営しています

Management Team



Founder and CEO

末次 浩詩
博士（工学）

ビジネス開発とプロダクト開発を統括。コンサルティング業界で10年強データサイエンスを軸に様々な業界での案件に従事し、独立起業。並行して東京大学の先端研にてマルチエージェント強化学習の研究、衛星コンステレーションスタートアップでソリューションR&Dに従事したのち当社を創業。東京大学先端研博士課程（工学博士）、INSEAD Management Acceleration Programme修了。

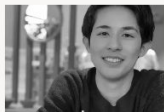


VP of Business Development

濱口 勝匡

気候変動分野における幅広い経験を持ち、ビジネス開発をリード。JICAで10年間、主に環境・エネルギー分野の事業開発、実施、評価を担当。続いて世界銀行で7年間、主に気候変動対策分野の事業評価、ナレッジマネジメントを行う。その後、グローバルコンサルティングファームにてサステナビリティ経営のコンサルティングに従事。京都大学総合人間学部卒業、サセックス大学科学政策研究所修士課程修了。

Due Diligence Team



VP of Applied Scientist

高橋 圭祐
博士（工学）



Senior Engineer

ファルク・マイヤー



ESG Specialist

鈴木 真代



Carbon Specialist

ジュリア・ドナー
博士（工学）



Senior Carbon Finance Specialist

美濃出 俊司



Business Analyst

ニコラス・フェッターリ



Applied Scientist

君根 祐貴



Business Development Manager

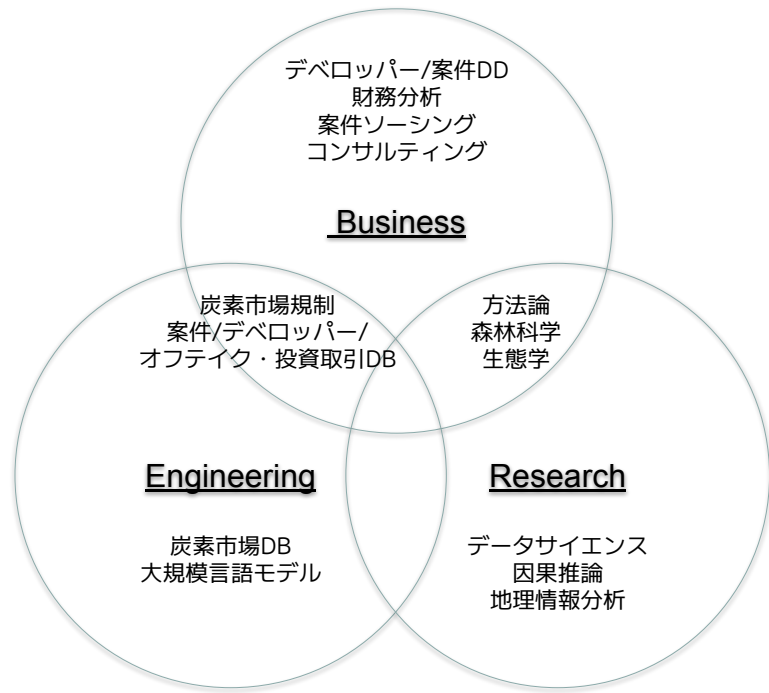
ミシェル・アビア



Applied Scientist

ニック・ホマン・ラク
博士（工学）

当社の構成要素



nature.cocraft

サービス紹介:

**カーボンクレジット共同調達プラットフォーム
(NCC: nature.cocraft)**

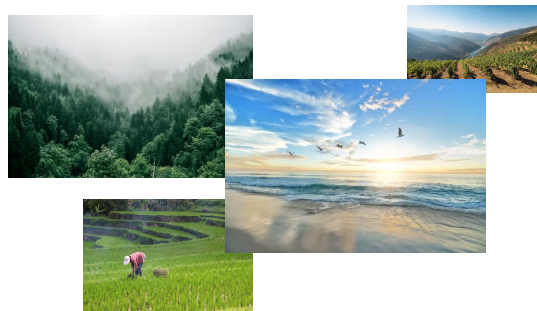
サステナクラフトの自然由来のカーボンクレジット共同調達プラットフォームとは

信頼性の高い海外のカーボンクレジットを、
効率的に調達することができるプラットフォームです。

サステナクラフトは、**2030年までに累計1億トン**の自然由来のクレジットを供給し、
自然資本への資金循環に貢献することを目指しています。



共同調達により、初期コストを抑えながらも、有利な条件で幅広い案件に関与することが可能に！



メリット 1

案件ポートフォリオの拡大と 効率的な案件分析

単独で調達するよりも幅広い案件に関与できるため、多様なポートフォリオで気候変動・政治リスク等をヘッジすることが可能に。



メリット 2

バイイングパワーを集めることによる 有利な交渉

複数バイヤーとバイイングパワーを合算することで、有利な交渉条件を引き出すことができます。



メリット 3

マーケット動向アップデートや 案件ケーススタディ

方法論や規制のアップデート、案件ごとのケーススタディなど、豊富な情報をお受け取り頂けます。

■ 本スキームで扱うカーボンプレジットの分類

本プラットフォームでは、日本政府が運営する2国間クレジットの「JCM」及び、国際的な民間団体が運営する発行メカニズムを利用した「自然由来のボランタリーカーボンプレジット」を取り扱う

クレジットメカニズム

JCMクレジット	ボランタリー	J-クレジット
○	○	×

地理的カバレッジ

(国名はこれまでに評価実績があるところ)

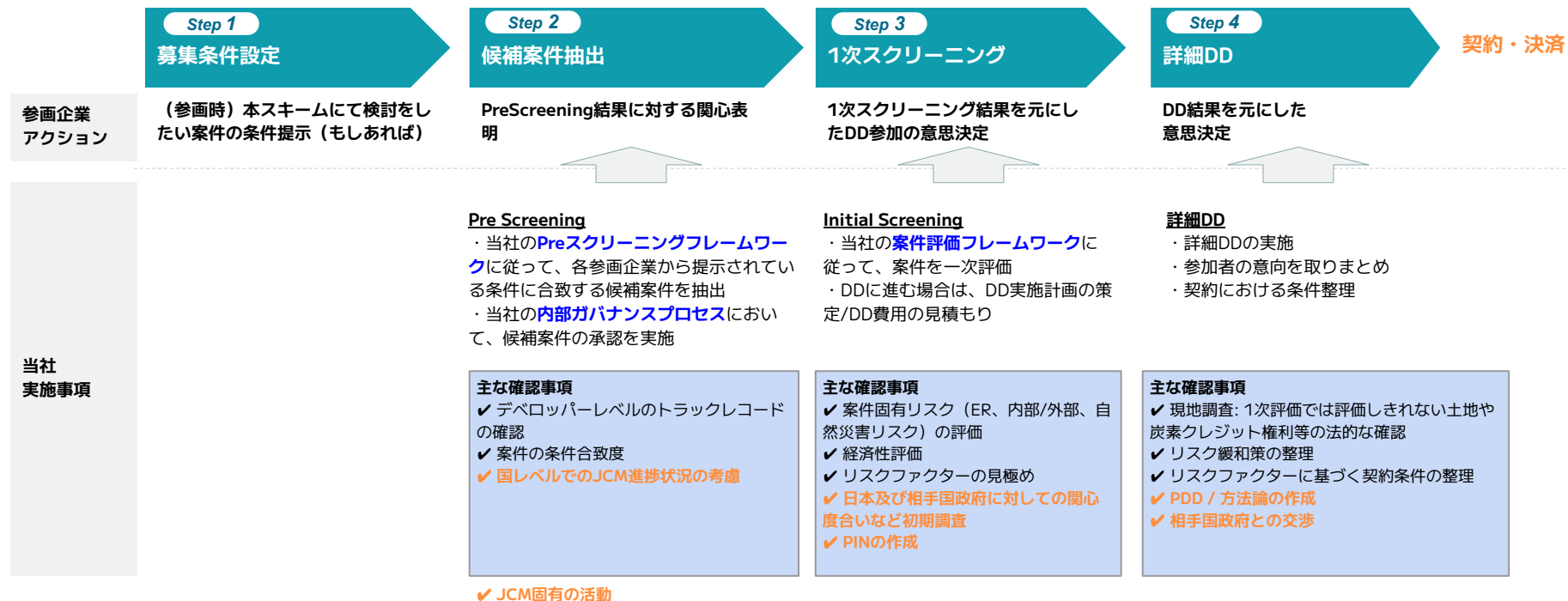
中南米全域	アジア全域	アフリカ全域
ブラジル／パナマ／ウルグアイ／コロンビア／メキシコ／ペルー	インドネシア／ベトナム／カンボジア／フィリピン／インド／パキスタン	南アフリカ／ガーナ／ケニア／ジブチ

活動タイプ

自然由来系 (森林・農地系)	自然/技術系混合型CDR	エネルギー系
○ REDD+／ARR／ALM ／WRC／IFM	○ バイオ炭／TSB／ERW	×
		省エネ／再エネ／CCS

■ 共同調達の流れ

本プラットフォームで扱う案件の条件を設定した上で、案件収集から分析、契約サポートまで一貫して実施



sustainacraft